

## 【長篠・設楽原の戦い】の徳川家康の軍事行動



### 天正3年の戦いの時系列

- ① 天正元年7月徳川家康は、菅沼正貞の長篠城を武田側より奪回した。
- ② 4月12日 武田勝頼が、徳川領の長篠城に向けて、甲府を出陣した。
- ③ 4月21日奥平貞昌が守る長篠城を、武田軍が1万5千の兵で包囲した。
- ④ 吉田城（豊橋）周辺を、武田軍は家康をおびき出すために荒らし回った。
- ⑤ 5月13日援軍要請を受け、信長が岐阜より長篠城の後詰めに向かった。
- ⑥ 5月14日 織田信長が、徳川家康の岡崎城に到着した。（清州同盟）
- ⑦ 5月14日鳥居強右衛門らが、援軍要請の使者として岡崎城に向かった。
- ⑧ 5月18日 平井の極楽寺で、徳川家康は織田信長と軍議を開いた。  
設楽原を決戦場と決め、馬防柵を2重3重に築いて武田軍を待ち受けた。
- ⑨ 5月19日設楽原に姿を現した、徳川・織田の連合軍の大軍を前にして、  
武田軍は、長篠の医王寺で軍議を開き、設楽原への進軍を決定した。
- ⑩ 5月21日早暁、家康家臣の酒井忠次率いる奇襲隊が、船着山を迂回  
して武田五砦を攻撃した。【長篠・設楽原の戦い】の火蓋が切られた。
- ⑪ 早朝6時頃に設楽原での戦闘が開始された。家康は八劔神社に本陣を  
置き陣頭指揮を執った。目の前には、山縣昌景隊が牙をむいて迫って来た。
- ⑫ 12時頃 連合軍の圧倒的な火縄銃の差が、武田軍を追い詰めた。
- ⑬ 13時頃 戦いの帰趨が見える。武田軍が総崩れとなる。
- ⑭ 14時頃 武田軍が20<sup>キロ</sup>離れた田峯城を目指して敗走する。
- ⑮ 5月22日 長篠城主奥平貞昌に、有海のコロミツ坂で恩賞を与える。



# 新城市は戦国の歴史と史跡の宝庫

1575年  
天正3年旧暦  
5月21日

その角を曲がる【長篠・設楽原の戦い】  
・戦いの経緯と何かがある

武田信玄亡きあと、跡目を継いだ武田勝頼は  
1万5000の軍隊で、徳川方の奥平貞昌が  
500の兵で守る【長篠城】取りを囲みました。

この事態に陥った徳川家康は、岐阜の織田信長  
に援軍要請を求め、(清州同盟)長篠城外の  
設楽原において、織田信長と徳川家康の連合軍  
は、戦国最強の武田騎馬軍団と戦いました。



【長篠の古戦場へのタイムスリップ】:ゆっくり歩いてみよう!

【織田信長・徳川家康軍はなぜ勝てたのか】

- ①長篠城の守りが固く落ちなかったこと。兵士の士気が高く兵糧も十分にあった。・長篠城は、天然の要害の地、川面から25mの断崖上に築かれたお城。
- ②長篠城から離れた、設楽原の連吾川右岸に【馬防柵】を築き、大量の鉄炮で、武田軍を待ち受けた事。
- ③長篠城の背後を突く、酒井忠次軍の、鳶ヶ巣山【奇襲作戦が成功した】事。  
鳶ヶ巣山攻撃で、武田軍の背後から、鉄炮の音が聞こえ武田勝頼軍に、退路を断たれた感じを与えた事。
- ④長篠城を脱した鳥居強右衛門と、鈴木金七郎の使者が、【長篠城】と【設楽原】の情報を伝える事が出来た事。
- ⑤リーダーの戦いの経験年数の差(つまり年齢)・勝頼は若すぎた。

織田・徳川連合軍

